(1)

吉川印刷工業所 印刷

局

解 括

るにあたって、我々が活動をする いう事を感じる事自体、我々の活 りなさを感じているのです。そう ん。しかし、我々が新聞を発行す もしれませんが)ある種のもの足 が多く(いや全部といっていいか **無を乗りこえ?ここに復刊第一号** で員会を設置、その後、幾多の困 た洛星新聞を復刊します。洛星新 足りない所や、また不満な点 とこに、長らく休刊となってい

する新輩

にあたって、最も強く感じたこと一いうスローガンをかかげたのであ」い意味における新聞というものに |ですが「みんなでつくる新聞」と|の転化という行動をみるにつけ広 た、今から考えると馬鹿らしいの一つ試験を通じての生徒の無関心へ やポスターによってそれをアピー いう形となり、数回にわたるピラ ルしてきたつもりであります。ま

の頃から我々は検閲ではないが学 公のわくという物に悩まされはじ そして11月中旬には既成の新聞

たのですが、局内(顧問を含一の無理解」であり、もっと深く言一生徒の間の意思聴通の不足は顕著 平による雑誌 一 群星 の制作にか する無理解 であり、それは 一 無 たが、多くは皆さんの計算用紙に りの機動性ある新聞を発行しまし の我々は贈与版刷りの自由投稿形

認められていないように感じられ というべき、我校におけるあらゆ 時は生徒自身の主体的活動の発露 は失望」ということでした。生徒 誌にしてはいけない」そして「生 して、新聞を我々局員だけの機関 からも学校からも、全然といって そもそも、洛星新聞局は再建当 また一ります。しかし、それはここ2・3 找々の考えのすみにあるのですが が起こりました。(これは今でも 些ではないか。<br />
一体、我々は誰の にはいきませんでした。生徒の中 て学校新聞とは何か」という疑問 してしまえ」等の意見がよせられ からは依然「御用新聞なんかつぶ 中の新聞のイメージを打破るまで

理の集会における生徒の主体的活 刈する疑問が生じました。<br />
またこ のです。けれども中間・実力とい 動というものに 希望を見出だした しかし、我々は9月30日等の一

っています。

を通じて我々が感じたことは何度 もいうようですが、 には5カ月間(9月から)の活動 とにかくこの9カ月間、本格的 一新聞局に対

ています)の意見が一方的である

た。(アンケートは2面掲載。) テーマ別ではあったのですが目的 アンケート」ということだけで、 聞局は無意味等の批判がありまし 批判とは別にアンケート用紙に新 りました。そして、アンケートの が不明瞭になって種々の批判があ に高ー・高ーのあるクラスで行な ていてもこないのであれば、取り という甘い幻想を持っていた。今 に行こうという事になり(この頃 という非個性的な方法を12月

そして、冬休みをこえて現在に至

の教育的配慮により、やむな に出してくださった方には感謝し すして何の新聞局かという理由等

その後、新聞局では原稿を待っ

して新聞は存在できると思えま いての支援もしくは有効な手段と うにも ならないかも 知 れません しかし、確かに我々だけではど 個人個人の主体性の回復にお

交流のなざ、先生と生徒、生徒と えの無関心、無関心ゆえの個々の 洛星においては主体性の欠如ゆ

めて)から局にきた投稿(本当一えば生徒(局員も含めて)の主体一であると思 性というものが必要なのでしょう 性の欠如であろうと思えます。 しかし、温室育ら過保護の中に 主体性を失う時、すべてのもの

ないでしょうか。 関心・無感動を得るのは当然では に受身的に過ごす時、無気力・無 我々新聞局が今後すべきことは

て新聞局の存在さえ危い時に。 の新聞局だけでこの問題を解決で 主体性の欠如ゆえの無関心によっ 強く感じたのは「生徒の主体性の かに有意義なものにするかという 刊することですが、その新聞をい きるでしょうか、ましてや、その ことです。 何度も言うようです 何でしょうか。もちろん新聞を発 が、我々が新聞局の活動を通じて す。 誌的な深 Đ,

何ら具体的な行動が出来なかっ

# 最後に

のを望みます。

た慣さんに 達人はこれを左右する 愚者は拒否し 弱者は与論におびえ 賢者は判断し 意葉をおくります。

(ローラン夫人)

な考え方を示したい。それは第一に良心に従ってつくるということ 

である。そして常に客観的な見方をするとい

である。決して一部局員と一部生徒の機関誌ではないということで 第二には、何度も言うが生徒の主体的意見の場としての洛星新聞

ではないのである(だからといって左翼の意見ばかりや右翼の意見、塵や、宗教、高校生の政治活動、10のは保守的立場と進歩的立場との意見を均分して載せるということ)るように思える。学内で起った問めて保守的立場と進歩的立場との意見を均分して載せるということ)るように思える。学内で起った問題の方が今のものよりもずっと学 た存在ではないのである。作っている局員も生徒であるし、読む方があふれている。た存在ではないのである。作っている局員も生徒であるし、読む方があふれている。そこには学校を、社会 右、左を分け、何をもって善悪を決定するのであろうか。だから、 ばかりをのせても中立といえない)だいたい何をもっていわゆる。年前の一新聞には安保問題についばかりをのせても中立といえない)だいたい何をもっていわゆる。 ただ新聞局は常に良心に従い、客観的立場をとって生徒全体の意見して一方的でない意志の映通があ (といっても多くの人が養成するからといって必ずしも正しいといり、主張の場として紙面が利用さ

中立の立場にある」と言明しても、何をもって中立なのかと言われ

人間は絶対者ではない。それゆえ、新聞局員が「洛星新聞は常に

れば果して何であろうかと困ってしまうのである。しかし、これは

新聞局自体の不安定を意味するのでもなければ、局員の態度の不真

面目さを示すものでもない。これは人間としての誰でも持っている

ある一種の不安の現われとも思えるのである。

ならどんどん批判され、を次の新聞に結集してほしい。洛 を組んでいるだけであ、出来なかったこともあり、読者の である。ただ、右にの してこそ洛星の洛星新|星新聞はみんなでつくるものであ り原稿の不足から、充分な選択が 不満も大きいと思うが、その不満 今度の新聞は復刊第一号でもあ 受動的に育っている生徒に、主体一ば、昨年四月以来、訴え続げてき われきす。 心われます。そして、そ

を、お互いが啓蒙しあう場にする。されてから、アラール校長の帰 そのためにはやはり生徒(局員も、ざな出来事があったにもかかわら た新聞をあらゆる面の主体的な意。楽記念号として発行されることに いうことによる外ないのでありき。稿の不足、技術員の不足等であ 含めて)の主体的な意見を待つと一ず号外一つ出せなかったのは、原 ということであります。そして、 見によるパ とに新聞の存在が必要であると思 イプ、もしくはお互いなった。今年の春に新聞局が再建 つまり、はっきり言え

国、文化祭の中止、寮問顧等さま

か、それとも消滅してしまうしか。任を感じながらも無力感に破れ、 り、洛星新聞は学校行事等の取材、寮問題。しかし新聞局はそのだ ないと思えます。 だけの新聞や局員だけによる機関 今や、洛星新聞の将来はこれをた。その後高ーの局員を中心とし b上がった新聞になる。たすことなく、また局員自身も責 れが行なわれない四人るべく起とった、文化祭中止問題

いじな時に問願解決への役割を果

る。長い間の沈滞ムードをつき破

# えるのであります。 ての者の双肩にかかっているとい。にして中止された。 そして 冬休 読む(読まない)洛星に学ぶすべ一て企画された「週刊群星」も途中

み。冬休みの少し前に編集会議で

一月二〇日発行が決定されたが再

がこんな四角定規の新聞を読みた。来ず、ついに復刊第一号はこの卒 これを読んでくださった皆さん。び原稿不足等の理由により発行出 一残して破りすてられる|薬記念号となった。 これを読んでくださっ

的な偏見をもったりしないで事にあたり、言うべき時には言うとい。それでも卒業式に間に合わせよう ん客観的な見方というのは黙って見ているというのではなく、感情」ねばならず、苦労の連続である。 うことである。もちろ ことが多い。定められた範囲の中 りで見出しの取り方などわからぬ とみんな必死になってがんばって めてしまったので、今の局員はほ に長短さまざまな原稿をはめこま とんど編集の経験のない素人ばか 技術を持った、ただ一人の人がや 頃)新聞島の局家は発行を本業式 の日に間に合わせるために遅くま かだ。新聞局の再建後すぐに編集 で仕事をしていてたいへんにぎや 今(僕がこの原稿を書いている

見を述べ合っている。そこには決 いる。 り出して読んでいると、昔出た新 て、
管否両論に分かれて
堂々と
意 新聞局が昔出した新聞を引っば

発刊に当って 一局員

ついに洛星新聞復刊第一号が卒

聞として成長していくのではなかろうか。 る。だからもしもその組み方に誤まりがある るべきであろうし、改善すべきである。そう べた主盲にそって、そのうちの何人かが哲学 つまり、局員とは洛星の生徒一人一人なの

先程での中立という<br />
問題を含めて、<br />
それらに対して新聞局の根底的 をつくるために努力し続けたいということははっきりしている。ど んな努力だらといわれれば、またまた困るのであるが、しかしここ くぐにはできないかもしれない。しかし、今の局員はそういう新聞 んな風になるのか。 そんな不安定な人間である局員が構成していく洛星新聞とは一体 確かに今の新聞島が絶対的に正しい判断をした新聞を出す事は今

ふと覚醒しては、自殺の機会が眼一のことです。例えば、僕は、今、

【いう既成概念に反抗してやりたか】 そしてホーム・ルームの時間に【と思います。 その 意味において

したり、名誉をえたりする。そして一ると「中途半端」というような人

カトリックを理解する為である。

「リックを肯定する点ではなくて

えない。それはライヘンパッハの

を以って答える人間になる為では 学校の教育理念に対して常にYes

校に対して常に区抗するという意 なくて、批判的な思考(それは学

の命令に従うように要求する権利

Yes or Noの形で解答を要求し

る。「すべての人は、自分自身の 次の言葉に明確に表現されてい

が最も望ましい。しかるにカトリ

洛

である。この当たり前ともいえる 味では無論ない)を身につける為

点について教師も生徒も目分なり

ならない。以下僕なりにこの問題

及びそれを通じて出てくるところ

いう次元にまで持ってこなくては

にとめておくのではなくて洛星と に考え、そしてそれを自己の次元

の問題について考えてみようと

倫理学の命題ないしは道徳的判

の世界に盗みがないということで

に関係なく盗みをすべきでないと

はなくて、現実がどういう状態がし、、又、そうでなければならな。味において即ちカトリックに反抗

い。とすれば教育が生徒の思想教

徒にはもたらす。

けない」と言うとき、それは現実一るというのは妥当でない。教育は

いては語らずにあるべき状態につ 断というものは現にある状態につ

村

泰

討

3、あなたは過去に洛星をよ

B思わない A思う

くしょうと考え、行動した

15、あなたは安保条約をどう

C全然知らない B少し知っている

25、あなたは万国博を見学し

たいと思いますか

4 12 20

4、あなたは現在浴星をよく

Bない

Aある

事がありますか

しょうと行動しているか、

または行動しょうと思って

16、あなたは安保条約を自分

自身に身近なものと感じま

Dわからない Cどっちでもよい B反対 A赞成 思いますか

いますか

ってそれは科学や数学におけるよーる確信の度合に応じてこの意見を一を無視した意見や反論)に明確に一くことは必要である。そういった一付いても認めようとしない。

独裁』という言葉やあるいは論理 種の生徒の言動(例えば"校長の

る以上、我々がそれを理解してお

師は気付いていない。あるいは気

5、あなたにとって洛星とは

B思わない

A思う(している)

何ですか(率度にいって)

C全然自分とは無関係

Bあまり感じない Aおおいに感じる

9 34 16 59

ると考えることが出来る。したが するな」という命令形をとってい

いて形成し、証拠が保証してくれ うに「我々の意見を証拠にもとづ きつめていけば、それは「盗みを」ランド・ラッセルが言っているよ いう事を言っているのである。つ一育においてとるべき態度はバート

ったことであります。

検閲制の廃止による生徒が管

担任の、先生の不満がでないとい

求に賛成、反対にかかわらず洛星 しも、みんなが掲示板の獲得への要

ろになっても、問題は山積みされ

いと思います。僕達が卒業するこ

何も不満を言わないものだから、

(2)

# とな

屋

の意見を書いていいのか解らない をしたり、同性愛にふけったり殺す。僕がよく使う言葉でいうとす たり憎んだり性交したり政治運動 しでおれたちは生きてゆく、愛し一てそのモデルになりそうな人間が のは何ひとつない。しかしおれた 唯一の行為だと知っている。そし でしょうか。『おれたちは自殺が われ、何となくそれを肯定してい の意見を述べたいと思います。 報にでも

書くとして、

ここでは

僕|見張られながらおれたちは
生きて のですが、執行部の意見は生徒会 の代表として書いていいのか、僕一なのだと気づく。しかしたいてい かるいおこすことができない。 そ ちは自殺のために跳びこむ男気を一 ておれたちを自殺からとどめるも る我々の時代とは一体どんなもの 僕は、との原稿を執行部の意見一のまえにあり決断さえすれば充分一との原稿を書きながら、われなが マスコミからは断絶の世代とい い、そとで遍在する自殺の機会に は自殺する勇気をふるいおこせな われの時代というものを表わして 所の引用です。少なくとも、僕にと だ。』上の文は大江健三郎の「わ ゆくのだ。これがおれたちの時代 かなり洛星にいるような気がしま ったといっていますが、僕も含め とべない若い世代をあらわしたか いると思えます。大江健三郎は、 って前述の文はかなり適確にわれ れらの時代」という小説の最後の 「われらの時代」で、見てからも ら健三郎をだしてくるとは、なん の行動の殆んどの割合を占めてい |方はおかしいとブツブツ念仏のよ||のむからお母さんにこれ以上心配 いてから行動することなんかが僕 ているんですから。まだまだあり で恐縮なのでありますが、酒を飲 二つ目の埋由は誠に個人的なこと うに唱えてても、現状は変わらな 理由は、日陰でいくら学校のやり て、「一郎ちゃん (子供の名) た 立候補したのでしょうか。一つの一アカに染まったかなどと心配し ます。中途半端な僕がなぜ、会長に とき、必ずその言いわけを考えつ とカッコいいんだろうなんて考え いということ、それよりも自分の ます。一つの行動について考える

考えをぶつけてみたかったこと。一母上が本当に泣いてるのか、演技一考えていますが、みんなも考えて 生徒会長になるのはけしからぬと んで無期停学になった男が神聖な「業するまで辛抱しょうということ」て僕は洛星のかかえている諸問題「動作を表わす語としていく時だと 倫 最も強調して来たことです。で「く素晴らしい学校なんだろうとい 理する掲示板の獲得」これが僕の になるのであります。 ちゃんのためならエンヤコラと卒よる掲示板を獲得したとき、始め一を状態を表わす語としてでなく、 なのかとまざいながらも、おかあしほしいと思います。生徒の管理に一遠ば、今「生きる」ということげ すのであります。すると僕達は、 をかけないで」といって涙をなが 母上などはおろおろして、さては たのお子さんは危険思想……とい する両親に担任の先生から、あな 発言をすると、我々が最も苦手と の学校のやり方を批判するような ませんが、言いたいこと、特に今 もかまってもらえないのかもしれ 度もありませんでしたが。もっと われ、それでなくとも気の小さい て、僕には今までそんなことは一 ません。なぜならば(幸いにし 目分のいいたいことをホーム・ルー が必要なのでしょうか。 僕たちは しょう。だから、これではいけない てい る でしょう。 ひょっとする けて作成したのですが、 内容につ ムなどで言うことは、まずあり スになっているでしょうか。僕は |なければならないのは生徒の管理 | と、検関制の廃止による生徒が管 れたら、やがてホーム・ルームで めることがどれだけ洛星にマイナ と僕は思います。みんなが三年や う確信が導きだされるのでありま うことは、おそらくこの学校は全 うことです。僕も二、三の方法を一決への第一歩目なのです。 による掲示板の要求を総会で決議一歩でも前進するということがどん です。僕個人としては生徒の管理 ラスで本当に話しあえると思うの て洛星について先生方と、またク くと思います。そしてそこで初め も削に述べた状態は改善されてい 今生徒の管理による掲示板で、み 六年のことだからといってあきら をどのような方法で行なうかとい っています。この時、僕達が考え して正式に学校に要求したいと思 んなの自由な意見の発表が確保さ の解決への第一歩をふみだすのだ。思います。

なり、予備校なりが、かかえてい

星が、かかえている諸問題は大学 うことが非常に大切なのです。洛

からです。もっと大きくいえば、 る問題と共通なものが少なくない

いて語る。即ち「盗みをしてはい」から何らかの意味で生徒を隔離す」ど)ことはある生徒に対してはカーたように、それが如何なる形でカ 我々が洛星にはいったのは、カーうな真が偽かの明確な基準をもち、懐くという習慣」をつくりあげる。象徴されているといわねばならな「意味で生徒に対して学校がカトリーならカトリックこそ唯一至上の支 カトリックのみを教え、他の思想一クを半強制する(例えばミサな」らある。しかし問題は始めに述べ うに教育においてカトリックならる。したがっていきなりカトリッのでは毛頭ない。否その反対です がある」以上の考察で明らかなよ。確からしざという概念の欠除があ。カトリックを教えるなど主張する 道徳的命令を打ち立て、万人がモーックはドグマである。それは常に一で主張する時、免れることのでき |真実を尽すことをその理想とする| グマにおとしいれるし、又逆な意| ながるのかという点が明確である | は教師(一部の)の目から見れば生 為に生徒の自由(意見の)を保証」い。それは何もカトリックに限っ するという形でのドグマを他の生る寛容的な態度、この二つをあく し尊重した上で助力するというの一たことではない。およそ権威なる トリックを肯定するという形でドートリックの強制ではなく理解につ それは最近の集会におけるある一我々が西洋思想を理解しようとす ものが自己の思想を不寛容な態度一から理解を前提としない強制へと ない事態である。しかし僕は何も る時、その顔流にキリスト教があ一の何物でもないのだ。この点に教一のことを各人心に留めておくべき まで条件とした上での事である。 ことともう一つは他の思想に対す ば生徒の自由を束縛するもの以外 り検閲制度である。これらの制度一う言葉は集団を表わす名称となり 的な表われは政治活動の禁止であり、それによって初めて洛星とい かえって起こりやすくなるのであ ックと生徒を愛するというゆえに 移行しょうとする時我々は黙認す一のである。我々はこうした矛盾に ックを理解させることは賞讃を受一理であり、したがって教師から生 徒を悪い思想や行ないから防ぐと は永遠の真理と見えるであろう。 る。即ち神父の目にはカトリック一ろう。しかし何よりも大切なこと ることは許されない。 けるに値する。しかしそれが理解 いう非常に大切なものであろう。 るがゆえに生徒の言論の自由を奪 少なくとも自己の信じている宗教 うという矛盾が存在する。その端 のカトリックを生徒に教えようと ないものである。そして神父は彼一自由を第一目標に掲げるべきであ するであろう。ここに神父が愛す が永遠の真理と思っているところ を積極的にドグマであるとは思わ しかもその移行は神父がカトリ しかしそれは我々の目から見れ 一は僕達の一致協力した組織的な連 用するのもいいし、他のグループ ケーションは必要とされるのであ ろう。 り以上のものでは決してない。こ 結んだ原子的な人間の単なる集ま 関して個々ばらばらに契約関係を は洛星というのは、学校と教育に うるのである。今のような状態で 段階以前に生徒と生徒のコミュニ 部といったコミュニケーションの 動であろう。そしてまず第一段階 を結成するという方法もあるであ 論そのやり方としては牛徒会を利 徒へというコミュニケーションの としては検閲制度廃止及び集会の 一方通行が必然的に圧当化される 対し向かわなければならない。無 なぜなら教師と生徒・洛星と外

2、あなたは今以上に洛星を

14、あなたはその内容につい

B知らなかった

A知っている

て知っていますか

Aよく知っている

13、あなたは日米安全保障条

B思わない

約という言葉を知っていま

Cわからない

3 51 8

ますか

60

23、あな

は現在政治活動を

と思いますか

Cどう

でもよい

A思う

5 6 50 61

たいといと思いまか

ずに社会をよくするために

というものが必要だと思い

A満足 していますか

よくしょうと思いますか

理する掲示板の獲得こそが問題解 生きてゆくのにぶきっちょな像 洛

総 員 96人 回収者数 62人 10、あなたには何でも話しあ 11、あなたは友人に不信感や 12、あなたは高校時代に親友 Bいない Aいる える親友がいますか 断絶感を持った事がありま Cその他

と、ほんのすこししか問題は解決しいて不明瞭な点も多かったので96 についてもう一度よく考えてほし一次に掲げてあるアンケートを実施 まま洛星の問題になっているのでいくつもりですからよろしくお願 今の社会がもっている問題がその一の手段として新聞局では実施して かを表わしていると思います。個 ケート」とし、テーマを4つにわ 通のない社会での唯一の意思表明 ますがアンケート結果は洛星の何 人の実施人員に対して回答アンケ 高ー・高ーのあるクラスにおいて 人個人で何かを受けとめてくださ しました。題は「70年の為のアン い。今後ともアンケートは意志疎 新聞局では、去年の12月下旬に 非常に小規模で不正確でもあり ト用紙は62枚でありました。 8、あなたは高校時代に先生 て、あなたは先生と話し合い 6、あなたは今の洛星に先生と Cその他(予備校等) Bない B自己の人格形成の一過程 Bない Aある A大学へ入るための 一過程 が必要だと思いますか Aある 思いますか 生徒の信頼関係があると B思わない A思う に人間的な信頼をもつこと をする時間がありますか 44 17、 あなた 60 20、あな 18、あなた A知って 出したのを知っていますか B知らない の政治活動に対する通達を 動をして Aある がありますか A知っている て知っていますか A法律で いる はその内容につい ば文部省が高校生

も、量は問題ではありません。

たとえ、一歩でも前進するとい

していないかもわかりません。で

9、あなたは現在、先生 B人間的な教育者 A勉強の為の手だて(ディ 師)に何を感じますか ーチングマシン 教 62 19、あなたは今までに政治的 な集会やデモに参加した事 C絶対に高校生はいかなる Bどんな(角材・火炎ビン 活動であろうとしてはい 的なデモや集会ならよい よいと思いますか は高校生が政治活 保証された非暴力 活動をしてもよい

60

なに重要なことかわかってもらえー1、あなたは今の洛星に満足

ると思います。くり返していう

す。そう考えていくと、たった一

56 6 62

ちでもいい

24、あなたは日本で万国博が

開かれる必要があると思い

22、あなたは現在未来を問わ

Bいやちがう

Aそのとおり

9 29 17 55

21、あなたははっきりいって

政治的

一関心ですか

階 局 は中

学の際の補導部介入問題から波及した「自治」という問題に関して この文は、洛星新聞第73号に掲載した昭和41年度前期生徒会長選 一今回の会長選挙をめぐる紛糾によって得られた最大の収穫は、

視ざれた、或は弾圧だ、反動だといきまく前に今回の事件がはたし 過は決して啓ぶべき内容ではないが、その結果は一つのキッカケと 部の責任は重大である。しかしながら補導部の生徒会に対する姿勢 結局、生徒の生徒会に対する意識が向上した点であろう。事件の経 るつもりで、文化祭や弁論大会に奔走したのであるが、 をこのように規定したのは、私達の生徒会の歴史ではなかろうか。 ことを何よりも戒めなければならない。第一に、私達の生徒会が無 員の意志の映通」は、歴代会長の叫んだ主張である、にもかかわら の官僚的意識に気づかずに「学校と対決」していたつもりであった して重要であるといえそうだ。まず、私達は軽率に事の判断を急ぐ **賞会を代表しているに過ぎなかったという訳である。「幹部と会** いう点に、大きな問題がある。彼らは、生徒の立場を代表してい 。れば「学校とのなれあい」<br />
に過ぎない。<br />
しかも、<br />
幹部自身は自ら し避け難いものであったかどうかを考慮すべきである。無論、補導 特に歴代の会長以下幹部の責任は大きい。歴代幹部の政策は極言

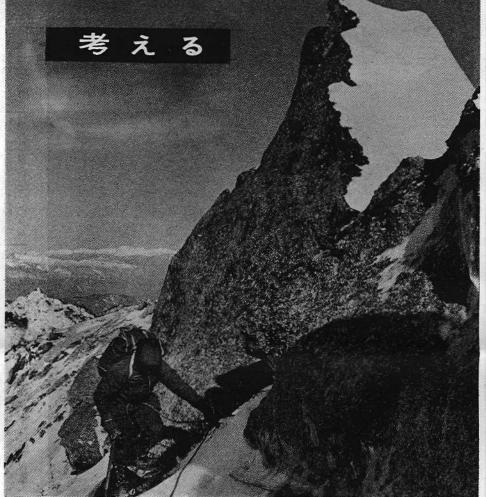
根本問題とは

べきである。だからこそ、今、私達自身が深く反省すべきなのであ 常に抑制的、消極的態度をとってきたのはむしろ当然であるという 幹部の活動が総花的になればなるだけ一層助長される様にさえ見え そして、誰も「生徒会の根本問題」に眼を向けなかったことを。 る。補導部が、そのように背後の団結を欠く幹部の意見に対して、 ず「幹部」と「会員」は難反する一途である。しかもその傾向は、 歴代幹部の「なれあい」をみすみす看過したことを、

う一段考えを進める必要がありそうだ。 るべきであろうか。その為には、まず、現在の生徒会について、も 不振を招いているのである。では「生徒会の根本問題」を何に求め 結果、生徒会の価値をどこに求めるべきかを知らないことが現在の 見失って、生徒会が真になしうること、なすべきことを忘れ、その というような簡単な問題ではない。会員も幹部も共に、根本問題を きな誤ちは、ここにもあるのだ。会員と幹部の雕反は、意志の不通 事柄ではあるが、それは、政策上の問題に過ぎない。歴代幹部の大 覚しやすいことを注意すべきである。「意思疎通」は確かに重要な 次に私達は「生徒と幹部の意思の疎通」を生徒会の根本問題と錯

の熱行、会報などの発行」などに限ってしまい、その面のみで「今 ということばにある。私達はややもすればこの生徒会活動を「行事 「生徒会活動に参加しよう」という主張がある。問題は「活動」

(3)



なってしまうのだ。 な生徒の姿勢が執行委員会に、表面的、総花的活動を強いることに 活動の様に許されているのと何ら変りがないではないか。そのよう

ものの核心に達することはできないのだ。いくら執行委員会が活発 導部の「かけひき」によって生徒会が運営される限り私達の求める は、学園の未来に対して、真剣に考え、行動せればならないことが 達には高校生として、或は、洛星の生徒として、社会に対して、或 を活発にやることが、勿論生徒の総意に基づかぬ訳ではないが、私 を守り、学校生活を向上させる為の協力機関に外ならない。文化祭 に立ち回っても、一般会員は生徒会そのものに疑義を感じ、これに 山積されているではないか。前会期には「高校生と政治」の問題が 絶望して生徒会を見捨てていく。 な生徒会では、どうしょうもなかったではないか。執行委員会と補 生徒会とは本来、学校の中にあって、生徒の総意を代表し、利益

ければならない。しかし、私達は「自治」の本質についても、誤ま 私達が得ることのできるものの大きさをはかるとき、厳しい決意を 欲実現の場でも、学校が活動の雑用を処理させるものでもないはず る」ことであるべきものだ。活動のみを主眼とする執行委員の名誉 ってはならない。「自治とは自分自身の問題を、自分自身で解決す 基づく民主的機関へ脱皮、生徒会の本来の目的へ進む線路にのせな 行委員会と補導部の独断的な「かけひき」を排して、会員の総意に もって、自治に向かうべきことに賛成してもらえることを信ずる。 とよりも、はるかに、大きな困難が待っている。だが、 だ。しかし「自治」を実現する為には、現状を惰性的に維持するこ に、目標に近づく為に必要な手段を認識するとき「自治」によって この生徒会の現状を救うものは「自治」の達成に外ならない。執 しかしながら、私達生徒会の過去と現在の乏しい実績を背景に、 私達が真

瀬ぎおこった。しかるにとの問題を、表面的活動を本位とするよう | ごっこ」にすぎない、彼らは、私達以上に、自分自身の問題を失っ の生徒会は活発だ」とか論ずる。それでは執行委員会が、一クラブ一学校に対して「自治を実現させよ」と主張したところで、学校は二 日に論ずることの危険である。彼らの自治は「自治ごっこ」「運動 はいくつかの危険を回避しなければならない。その第一は「自治」 一識を高め、生徒会の中で討論を重ねて、会員の力を一つにまとめて ない。現在の私達がなすべきは、生徒会の現状を分析し、自治の必 の足を踏むだろう。それは当然のこととして、私達が怒るには当ら 達の「自治」なのである。 反するものではないし、むしろ学校全体を発展させるものこそ、私 険である。私達が「自治」を実現することは、決して学校の利益に を現在行なわれている大学の自治、或は、京都の公立校の自治と同 することである。つまり「自治」を前提に、私達は会員としての意 ているのだ。第二は、自治実現にあたり、学校を敵視することの危 いくことが、まず必要なのである。だが、この段階において、私達 要を認識し、このことを前提として「自治の本質」を、真剣に討論

んでいこうではないか。学園の将来は、正に、私達自身の手にかか とはあるまい、今こそ、私達は学園の理想へ向って、生徒全体が進 なってしまうだろう。学校を愛する私達にとって、こんな悲しいこ に類のない優れた伝統を有する学園としての道を踏み出すべきだ。 出そうではないか。 か、洛星における輝かしい「自治の伝統」を、私達自身の手で創り っている。私達自身の問題は、私達自身で解決していこうではない 期にあたり、社会に卓越した人間を育成する意味からも、洛星は他 受験一本槍の教育偏向は、今や頂点に達しようとしている。この時 現状のままでは、世間の「名門校」の一角として、何の進歩もなく る時期である。社会の教育への要求は、ますまず強まる一方、大学 洛星も創立以来十五年の年月を経、今こそ、洛星百年の計を論ず

に向っていくととは好ましくないかもしれない。しかしながら、消一親心」も必要だと思うが、 安定と平和を尊重しがちな学校にとって、私達が「自治」の方向

して思いやりがあり、

個人的に説得して立候補させる。我々の学校はあまりにも我々に対

寛大すぎるのではないだろうか、

「子を思う

ある面では「千尋の谷へ突き落とす事」

て値うちが出てくるのである。 の大金も有効に使ってこそはじめ 十数万円もの資金があり、財政的

以上のように現在新聞局には四

四六、八三九円

今年度収支合計残金

には全く問題はない。しかし、こ

か「……の責任を問う」等、とかあったように思える。つまり、前る前に押しつけられてあるというして我々は、はっきりした責任を

「その責任は誰がとるのか」と れは 責任逃避・転化 という 形で る責任という物が、我々が認識す たいことを行なう場合、それに対

く最近は「青任」という言葉をよ 記したが自分以外のものに責任を 事、そして別のいい方をすれば我 自覚する必要があると思われる。

とらせる事によって、自分には貴々が責任を自覚していないともい

「自由にさせろ」と、我々はよ

のとはいえないようである。かえ もいる。決してこれは年代的なも 分という者に対して責任をとる者 人もいるし、中学生でも堂々と自 分に対して責任が全然とれない大

のは年代的というより、個人の自

結局我々がいかに自己の行動言

無責任で武装する傾向があるよう って年をとった方が処世術という 以外に責任をおく事によって、常

動。これは我々の日常でもよく見 に自分の安定を求めようとする行 うか。つまり何事に対しても自己

ったように振まう事ではないだろ

して、後は自分は何の関係もなか

ての責任はその責任者だけにとら

そうである。しかし、ここで見落

理ぶには都合のよい方法だといえ

って相手の非を認めさせることがば、遺任をとらなくてもいい物、

確かに責任を追求することによである。それゆえ我々はともすれえ、いつも「君達にはまだ、そう

るのを嫌う傾向にあるといえそうしがちではないだろうか、それゆ

任者にとらせる。これは確かに合ように思える。

理的・能率的・つまり事を円滑に

らかじめ、規定し、それを遂行すして無関係であったことを明確に

く聞くようである。

る際に起こる問題の責任をその責 しょうとする以外何ものでもない 責任というものにわずらわせられ 責任というものを、ないがしろに

自分ではあまり気にかけていない 由に何でもやるという事に伴なう

物事についての責任の所在をあ任がないという事とその物事に対えるのであるが。とにかく我々はく要求する。しかし、我々は、自

してはならないのは、物事につい

随

感

ろうか。しかし、年をとっても自

いう事に対して責任をとる能力が

ない」等と反論されるのではなか

生徒総会が何回か流会し、そしということを証明するとは思えな 受けられるように思える。 て、職員会議による中止決定。いい。そのまちがった相手を温存さ一架にかかった。我々がそれを自分 例えば去年の文化祭であろう。 れが決して自分に責任がなかったいないだろうか。 できるかもしれない。しかし、そ与えられたものだけを行なってはにもみえる。そして責任というも キリストは人間全体の為に十字覚の度合のように思える。

関心、教師の独裁等という意見もる。 と言う者もあれば、会員全体の無 任があるのではなかろうかと思え トはそれを自分の責任であると感 ら規定されたものでなく自ら規定 ったい誰の責任か、執行部の怠慢 せていたという事自体、我々に責 の責任でないと思う事でもキリス 動に責任(もちろん・これは他か

あった。それは何かお互いがお互 いに責任をなすりつけあっている 任を逃避・転化するのであろう る。我々は決してキリストではな 題もこの辺から解決しそうな気も という感さえあった。そして、そか。それは、結局我々の回りにあいが、自分のやろうと思う事、やりする。

なぜ、我々が、そのように、 萱 自分の責任であると考えたのであ うに思える。そして検閲という問 したのである。人間を救うことが自由というものもかかっているよしたのである。人間を救うことがしたもの)を目覚するかに我々の

E

なってしまう。今こそ学校は、学園の将来の為に思い切った処置を にかかっているのだ。指導一点張りでは、生徒はますます依存的に 来」を担う気構えをもって、学校の勇断を促進させようではない すべきである。又、私達は十分な自治意識をもち、真に「学園の将 る。ここまで成長した誇り高き学園の今後の発展は、今や「生徒」 から 極的な事勿れ主義の優柔不断は、学園の発展を妨げるばかりであっ

いのだろうか。生徒会執行部の立候補がない時、学校側から誰かを ろうか。しかし、我々が生徒会に対して無関心であろうと、必要を 我々にとって本当に生徒会は必要なのだろうか。予算分配というこ 外、何の存在価値があるのかを考えるべきではなかろうか。実際、 び掲載するかといえば、この記事の内容、つまり「生徒会の根本問 感じなくても生徒会はあるという事、我々はこれを黙認していてよ か、なぜ生徒の行なう文化祭が職員会議の決定によって中止になっ とを抜けば、生徒会があろうがなかろうが、我々にとってどっちで 我々にとって現在行なわれている生徒会というものが、予算分配以 ものは、その極に達しているように折々感じられる。なぜ我々は無 題」や「自治意識」ということは、現在の洛星の生徒会への無関心 たろうか。つまり我々生徒会会員全体の無関心ゆえの結果ではなか たか。裏を返せば生徒総会の度重なる流会のゆえの結果ではなかっ もいいのではないだろうか。 去年の文化祭はどうであっただろう 題提起にはなり得る古くて新しい呼びかけとも思えるからである。 関心であるか。なぜ我々は無関心となったか。これを論ずるよりは、 (度重なる総会の流会)への解答とまでもいかずともある意味で問 以上が、73号掲載の記事であるが、なぜ、新聞局が古い記事を再 現在、洛星における生徒の生徒会等に対する無関心、失望という

支出内容

原紙 要半紙

一、三番

も必要ではないかと思う。そして我々もいつまでも、それこそ消極 るという 的な事勿れ主義でいるより「自分自身の問題を、自分自身で解決す はなかろうか。 ノ自治意識をもって常に向上を求めなければならないので

# 新聞局会計報告 和 44 年

この復刊にあたり今年度の会計報 | 容の充実した新聞にするためにも ぶりに発刊されることになった。 「洛星新聞」が約二年|たがって、より有能な生徒諸君! |この「洛星新聞」を今までより内 新聞局に集まれぐ

昭和45年1月13日現在

告を次に掲載する。

前期(43年度)繰越金

今年度収入

四、九七〇円〇円〇円

1 支出 いよいよ

# 員大募

希望者は中学 4 階局室まで

洛

吉川印刷工業所

ここに、長らく休刊となってい 局

括

るにあたって、我々が活動をする ん。しかし、我々が新聞を発行す いう事を感じる事自体、我々の活 りなざを感じているのです。そう か多く(いや全部といっていいか **難を乗りこえ?ここに復刊第一号** 徒の主体的意見の出現を待つ」と というべき、我校におけるあらゆ 時は生徒自身の主体的活動の発露 をめざしたのでした。そして一決

にあたって、最も強く感じたこと一いうスローガンをかかげたのであ やポスターによってそれをアピー いう形となり、数回にわたるビラ ルしてきたつもりであります。ま

たのですが、局内(顧問を含一の無理解」であり、もっと深く言一生徒の間の意思疎通の不足は顕著 にが、多くは皆さんの計算用紙に りの機動性ある新聞を発行しまし いうものに疑問を感じ謄写版刷 そして11月中旬には既成の新聞

ですが「みんなでつくる新聞」と一の転化という行動をみるにつけ広 そもそも、洛星新聞局は再建当 い意味における新聞というものに かし、我々は9月30日等の一

の頃から我々は検閲ではないが学 校のわくという物に悩まされはじ

認められていないように感じられ は失望」ということでした。生徒 牛の新聞のイメージを打破るまで

刈する疑問が生じました。<br />
またこ のです。けれども中間・実力とい 埋の集会における生徒の主体的活 找々の考えのすみにあるのですが

もいうようですが、

にはいきませんでした。生徒の中 ています)の意見が一方的である に出してくださった方には感謝し

テーマ別ではあったのですが目的 アンケート」ということだけで、

そして、冬休みをこえて現在に至 た。(アンケートは2面掲載。)

を通じて我々が感じたことは何度 には5カ月間(9月から)の活動 とにかくこの9カ月間、本格的 新聞局に対 無気力から

聞島は無意味等の批判がありまし 批判とは別にアンケート用紙に新 りました。そして、アンケートの

一交流のなさ、先生と生徒、生徒と 洛星においては主体性の欠如の

が不明瞭になって種々の批判があ という甘い幻想を持っていた。今 に高ー・高=のあるクラスで行な 行こうという事になり(この頃 その後、新聞島では原稿を待っ トという非個性的な方法を12月 の新聞局だけでこの問題を解決で 何でしょうか。もちろん新聞を発 が、我々が新聞局の活動を通じて 刊することですが、その新聞をい 関心・無感動を得るのは当然では て新聞局の存在さえ危い時に。 主体性の欠如ゆえの無関心によっ きるでしょうか、ましてや、その ことです。何度も言うようです ないでしょうか。 に受身的に過ごす時、無気力・無 しかし、確かに我々だけではど 我々新聞局が今後すべきことは 主体性を失う時、すべてのもの 今後の展望

いての支援もしくは有効な手段と うにも ならないかも 知 れません して新聞は存在できると思えま が、個人個人の主体性の回復にお

のを望みます。 た皆さんに言葉をおくります 殿者は拒否し 弱者は与論におびえ 達人はこれを左右する 賢者は判断し これを読んでくださっ

(ローラン夫人)

中立の立場にある」と言明しても、何をもって中立なのかと言われ ある一種の不安の現われとも思えるのである。 面目さを示すものでもない。これは人間としての誰でも持っている れば果して何であろうかと困ってしまうのである。しかし、これは 新聞局自体の不安定を<br />
意味するのでもなければ、<br />
局員の<br />
態度の不真 んな風になるのか。 そんな不安定な人間である爲員が構成していく洛星新聞とは一体 人間は絶対者ではない。それゆえ、新聞局員が「洛星新聞は常に

先程での中立という問題を含めて、それらに対して新聞局の根底的 んな努力だ?といわれれば、またまた困るのであるが、しかしここ をつくるために努力し続けたいということははっきりしている。ど くぐにはできないかもしれない。しかし、今の局員はそういう新聞 썙かに今の 新聞局が絶対的に正しい 判断をした 新聞を出す事は今 べた主旨にそって、そのうちの何人かが活字

聞として成長していくのではなかろうか。

(1)

Na 8 1

> 的な偏見をもったりしないで事にあたり、言うべき時には言うとい。それでも卒業式に間に合わせよう ん客観的な見方というのは黙って見ているというのではなく、感情しればならず、苦労の連続である。 である。そして常に客観的な見方をするとい な考え方を示したい。それは第一に良心に従ってつくるということ うことである。もちろ

である。決して一部局員と一部生徒の機関誌ではないということで 第二には、何度も言うが生徒の主体的意見の場としての洛星新聞いる。

ではないのである(だからといって左翼の意見ばかりや右翼の意見、題や、宗教、高校生の政治活動、10のは保守的立場と進歩的立場との意見を均分して載せるということ。るように思える。学内で起った問 ただ新聞局は常に良心に従い、客観的立場をとって生徒全体の意見して一方的でない意志の疎通があ ばかりをのせても中立といえない)だいたい何をもっていわゆる。年前の新聞には、安保問題についではないのである(たかととい・スカラの音号になっていわゆる)年前の新聞には、安保問題につい た存在ではないのである。作っている局員も生徒であるし、読む方があふれている。 えないが)を反映させてゆきたい。洛星新聞は決して生徒から離れれている。そこには学校を、社会 右、左を分け、何をもって善悪を決定するのであろうか。だから、 (といっても多くの人が賛成するからといって必ずしも正しいといり、主張の場として紙雨が利用さ さて中立という問題について少し、具体

る。だからもしもその組み方に誤まりがあるならどんどん批判され、を次の新聞に結集してほしい。洛べた主旨にそって、そのでその何人カカを与え着人ているよいです。不満も大きいと思うが、その不満 るべきであろうし、改善すべきである。そうしてこそ洛星の洛星新星新聞はみんなでつくるものであ つまり、局員とは洛星の生徒一人一人なのである。ただ、右にの や組んでいるだけであ 出来なかったこともあり、読者の り原稿の不足から、充分な選択が 今度の新聞は復刊第一号でもあ

|めて)から局に含た投稿(本当|えば生徒(局員も含めて)の主体|であると思われます。そして、そ 性というものが必要なのでしょう 受動的に育っている生徒に、主体 性の欠如であろうと思えます。 しかし、温室育ち過保護の中に ば、昨年四月以来、訴え続けてき 見によるパ の存在が必要であると思 つまり、はっきり言え

を、若い いうことによる外ないのでありま一稿の不足、技術員の不足等であ 含めて)の主体的な意見を待つとず号外一つ出せなかったのは、原 そのためにはやはり生徒(局員も ということであります。そして、 た新聞をあらゆる面の主体的な意業記念号として発行されることに が啓蒙しあう場にする。されてから、アラール校長の帰 イプ、もしくはお互い ざな出来事があったにもかかわら なった。今年の春に新聞局が再建 国、文化祭の中止、寮問履等さま ついに洛星新聞復刊第一号が卒

り、洛星新聞は学校行事等の取材一、資問題。しかし新聞局はそのだ い部分だけ がこんな四角定規の新聞を読みた一来ず、ついに復刊第一号はこの卒 えるのであります。 ての者の双肩にかかっているといにして中止された。そして冬休 か、それとも消滅してしまうしか。任を感じながらも無力感に破れ、 だけの新聞や局員だけによる機関<br />
いじな時に問題解決への役割を果 読む(読まない)洛星に学ぶすべ一て企画された「週刊群星」も途中 これを読んでくだざった皆さん|び原稿不足等の理由により発行出 今や、洛星新聞の将来はこれをた。その後高ーの局員を中心とし 最後に 2残して破りすてられる|業記念号となった。 b上がった 新聞になる。たすことなく、また島員自身も責 てれが<br />
行なわれない<br />
国<br />
るべく起こった、<br />
文化祭中<br />
止問題 何ら具体的な行動が出来なかっ み。冬休みの少し前に編集会議で る。長い間の沈滞ムードをつき破 月二〇日発行が決定されたが再

ことが多い。定められた範囲の中 とみんな必死になってがんばって りで見出しの取り方などわからぬ に長短さまざまな原稿をはめてま とんど編集の経験のない素人ばか めてしまったので、今の局員はほ 頃)新聞局の局室は発行を卒業式 技術を持った、ただ一人の人がや で仕事をしていてたいへんにぎや かだ。新聞局の再建後すぐに編集 の日に間に合わせるために遅くま 今(僕がこの原稿を書いている

的に善く。中立という一枚新聞としての役割を果たしていい。 見を述べ合っている。そこには決 り出して読んでいると、昔出た新 新聞局が昔出した新聞を引っぱ

発刊に当って 一局員